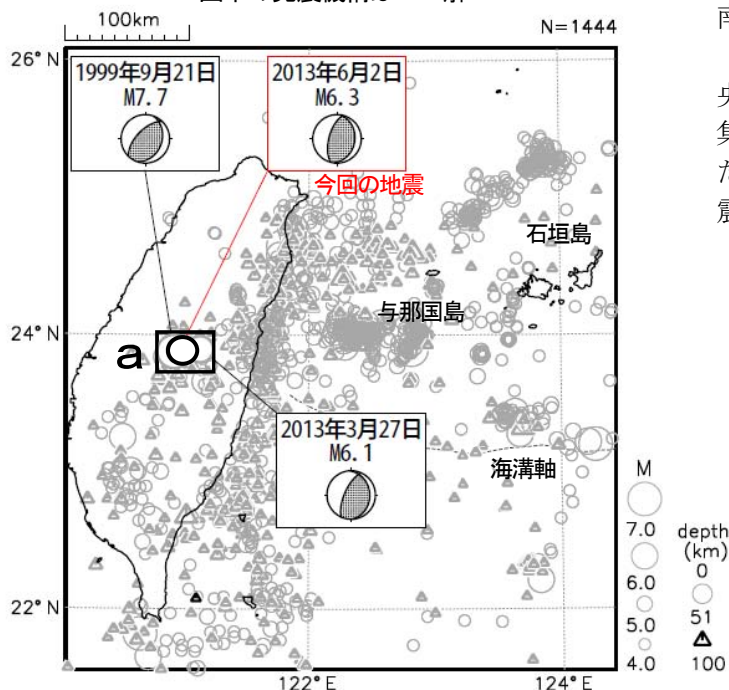


6月2日 台湾付近の地震

震央分布図

(1997年10月1日～2013年6月2日、
深さ0～100km、 $M \geq 4.0$)

2013年6月1日以降の地震を濃く表示
図中の発震機構はCMT解

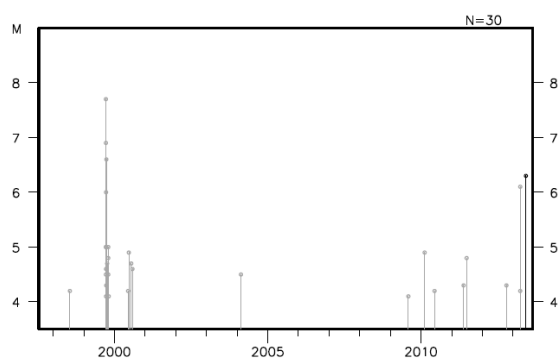


2013年6月2日14時43分に台湾付近（台湾中部）でM6.3の地震が発生した。この地震により、日本国内で最大震度1を観測した。

この地震の発震機構（CMT解）は、西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

1997年10月以降の活動を見ると、この地震の震央付近（領域a）では、1999年9月21日にM7.7の集集地震（日本国内で最大震度2）が発生した。また、今年3月27日には、M6.1の地震（日本国内で震度1以上は観測していない）が発生している。

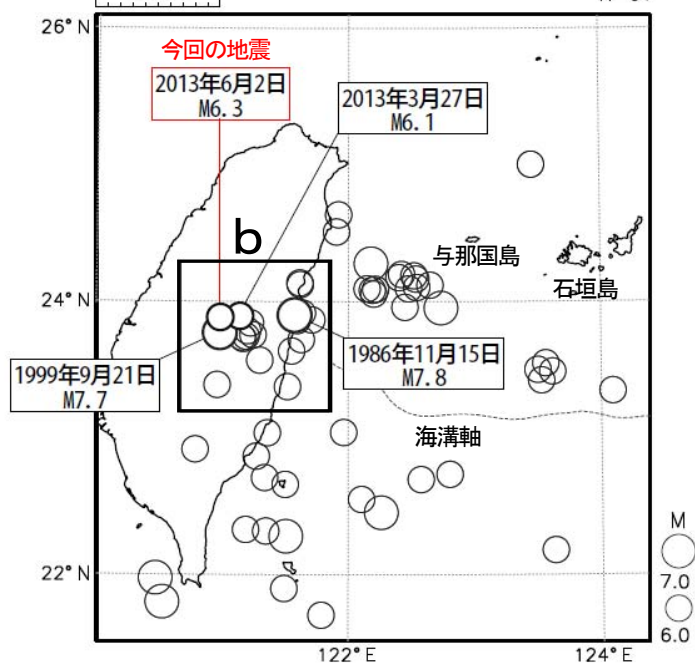
領域a内のM-T図



震央分布図

(1970年1月1日～2013年6月2日、
深さ0～50km、 $M \geq 6.0$)

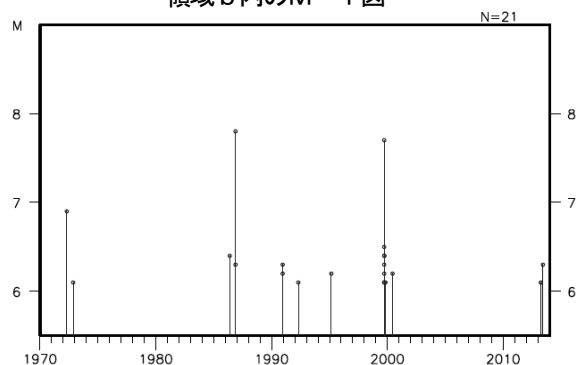
N=61



今回の地震の震源要素は気象庁による。
その他の震源要素は米国地質調査所（USGS）による。

1970年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域b）では、1986年11月15日にM7.8の地震（日本国内で最大震度3）が発生し、台湾で死者13人、負傷者45人の被害が生じ、宮古島平良で30cmの津波を観測した。また、1999年9月21日のM7.7の集集地震（日本国内で最大震度2）では、台湾で死者2,413人、負傷者8,700人の被害が生じた（共に被害は「宇津の世界被害地震の表」による）。（マグニチュードは米国地質調査所[USGS]による）。

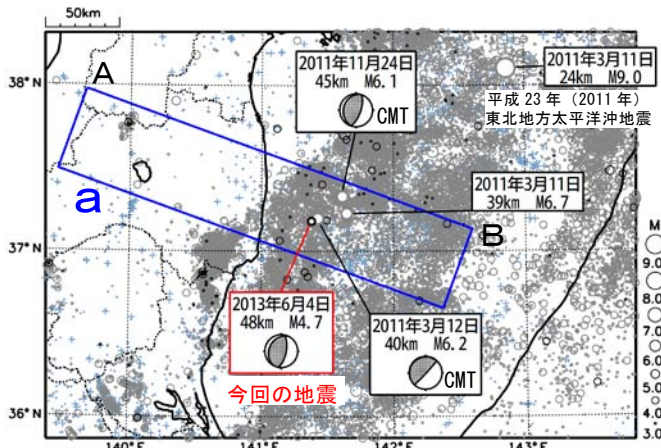
領域b内のM-T図



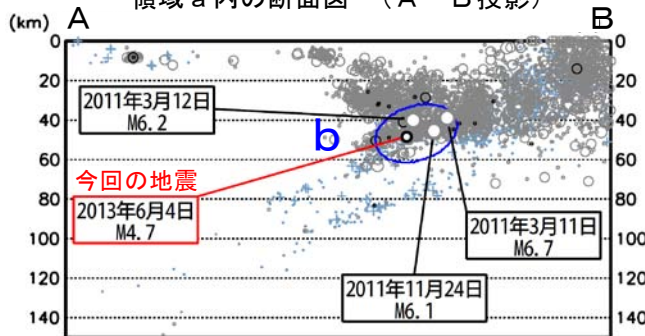
6月4日 福島県沖の地震

震央分布図※
(1997年10月1日～2013年6月4日、
深さ0～150km、 $M \geq 3.0$)

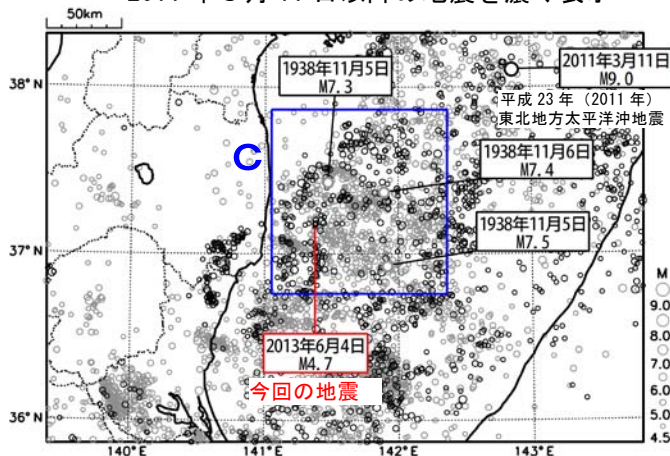
東北地方太平洋沖地震以前に発生した地震を+、東北地方太平洋沖地震発生以降に発生した地震を薄い○、2013年5月以降に発生した地震を濃い○で表示



領域a内の断面図※（A－B投影）



震央分布図※
(1923年1月1日～2013年6月4日、
深さ0～150km、 $M \geq 4.5$)
2011年3月11日以降の地震を濃く表示

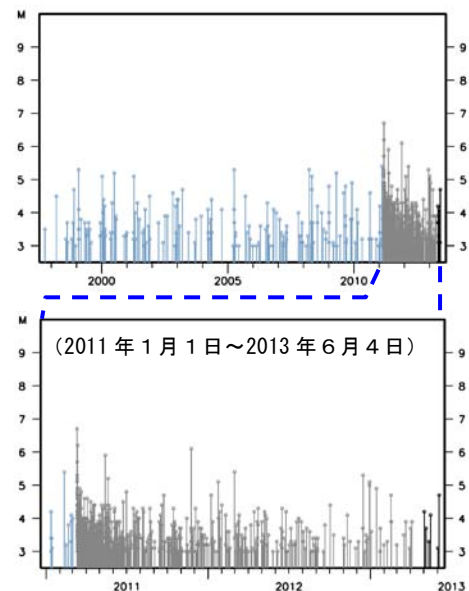


※2011年3月13日～5月30日に未処理のデータがある。

2013年6月4日14時47分に福島県沖の深さ48kmでM4.7の地震（最大震度4）が発生した。この地震の発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。

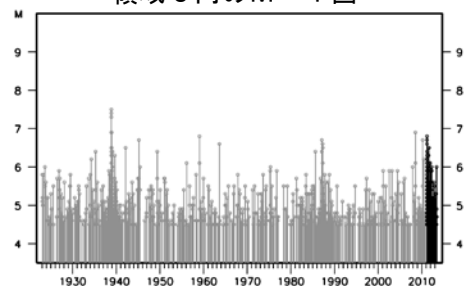
1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（領域b）では、M5.0以上の地震が時々発生していたが、「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」の発生以降、2011年3月12日にM6.2（最大震度5弱）の地震が発生するなど、地震活動が活発になっている。

領域b内のM－T図※



1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、1938年11月5日にM7.5の地震が発生し、宮城県花巻で113cm（全振幅）の津波が観測されたほか、死者1人、負傷者9人、住家全壊4棟、半壊29棟などの被害が生じた（「最新版 日本被害地震総覧」による）。なお、この地震では本震と同程度の規模（M7クラス）の地震を含め活発な余震活動を伴った。

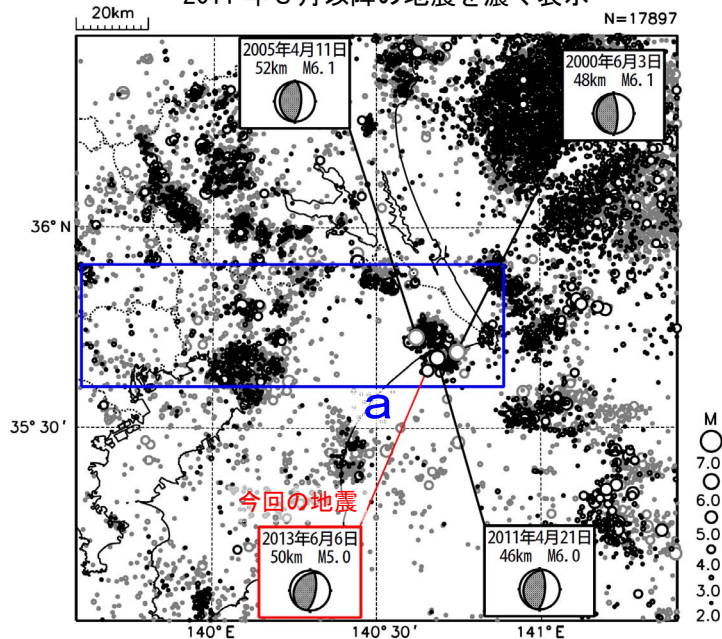
領域c内のM－T図※



6月6日 千葉県東方沖の地震

震央分布図

(1997年10月1日～2013年6月7日18時、
深さ30～90km、 $M \geq 2.0$)
2011年3月以降の地震を濃く表示

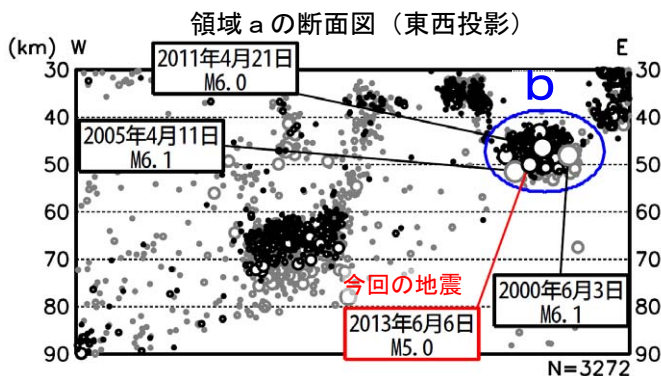
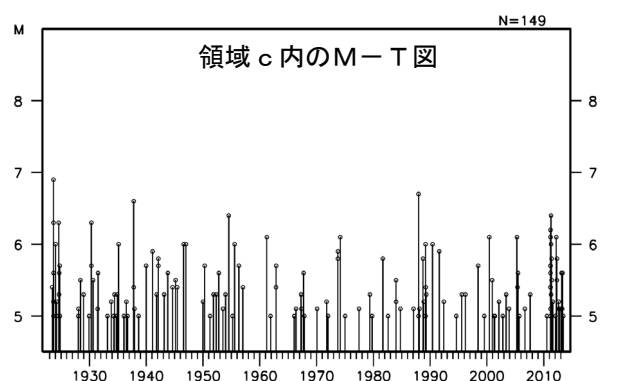
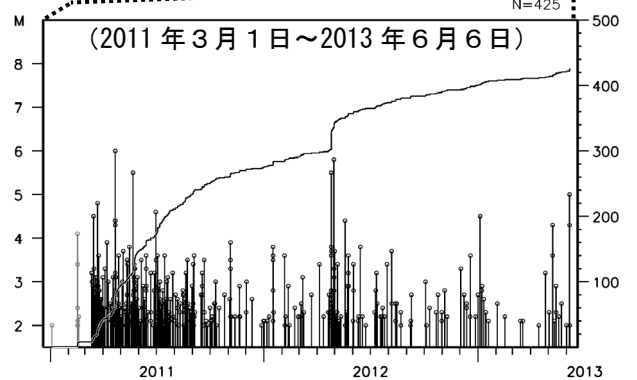
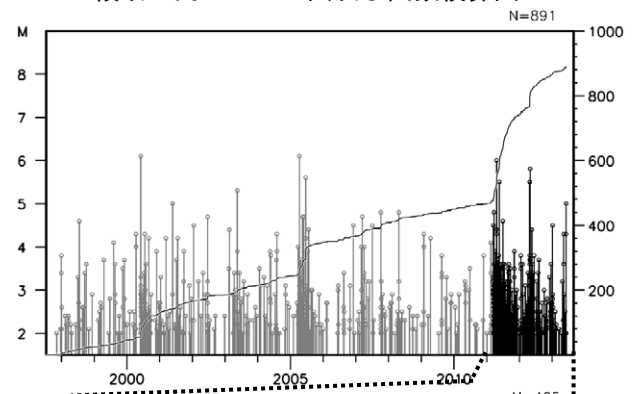


2013年6月6日12時28分に、千葉県東方沖の深さ50kmでM5.0の地震 (最大震度3) が発生した。この地震の発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界で発生した地震である。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近 (領域b) では、「平成23年 (2011年) 東北地方太平洋沖地震」の発生前から地震活動があり、東北地方太平洋沖地震の発生後に、地震活動がより活発になっている。

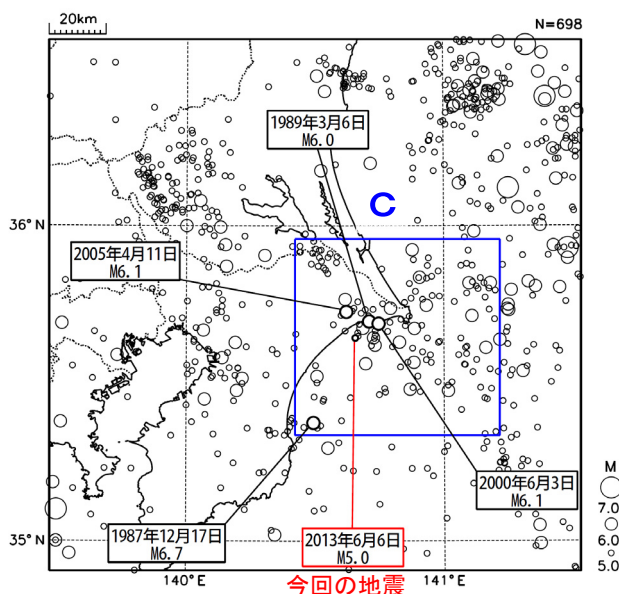
1923年1月以降の活動を見ると、今回の震源の震央周辺 (領域c) ではM6.0以上の地震が時々発生しており、そのうち、1987年12月17日に発生したM6.7の地震では死者2人、負傷者161人、住家全壊16棟、一部破損7万棟余などの被害が生じた (「理科年表」による)。

領域b内のM-T図及び回数積算図



震央分布図

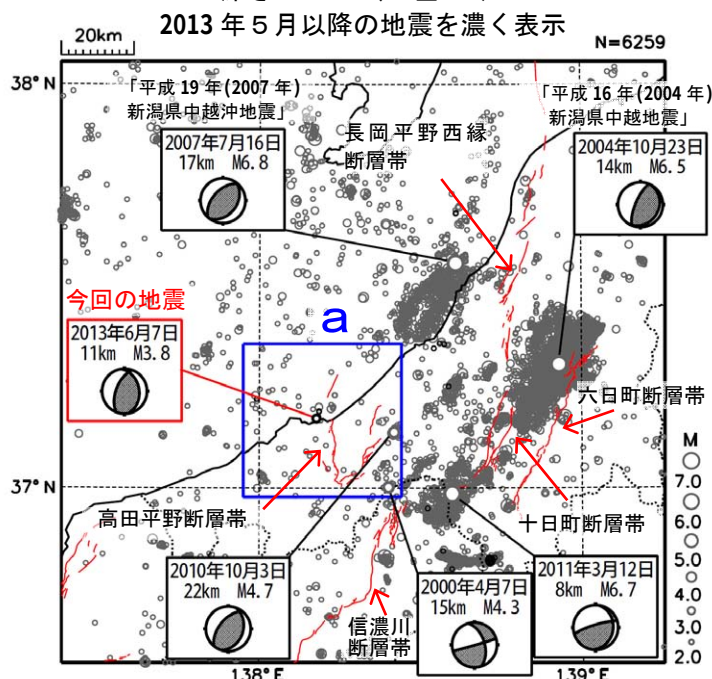
(1923年1月1日～2013年6月6日、
深さ0～150km、 $M \geq 5.0$)



6月7日 新潟県上中越沖の地震

情報発表に用いた震央地名は「新潟県上越地方」である。

震央分布図
(1997年10月1日～2013年6月9日、
深さ0～30km、 $M \geq 2.0$)



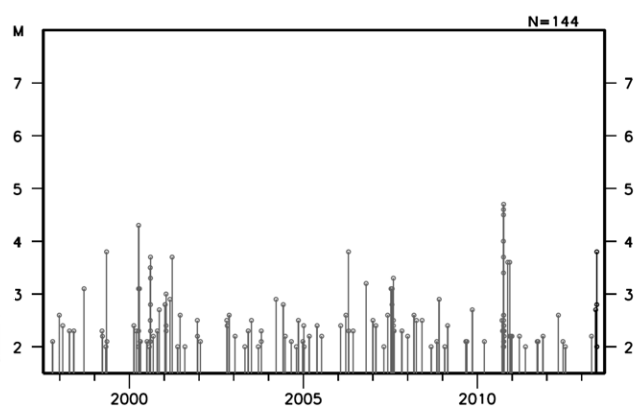
細線で地震調査研究推進本部による主要活断層
を表示している。

2013年6月7日22時29分に、新潟県上中越沖の深さ11kmでM3.8の地震（最大震度4）が発生した。この地震は地殻内で発生した。この地震の発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

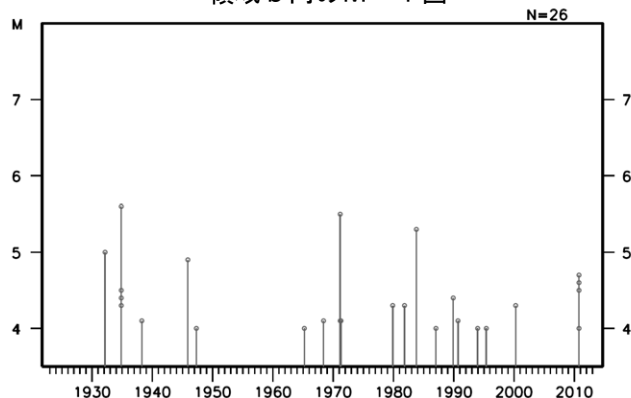
1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（領域a）では、2000年4月7日のM4.3の地震（最大震度4）と、2010年10月2から3日にかけての地震活動（最大規模M4.7、最大震度5弱）が発生したが、それ以外M4.0以上の地震は発生していない。

1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近（領域b）では、M5.0以上の地震が4回発生しており、そのうち1971年2月26日のM5.5の地震では、負傷者13人などの被害が生じた（「最新版日本被害地震総覧」による）。

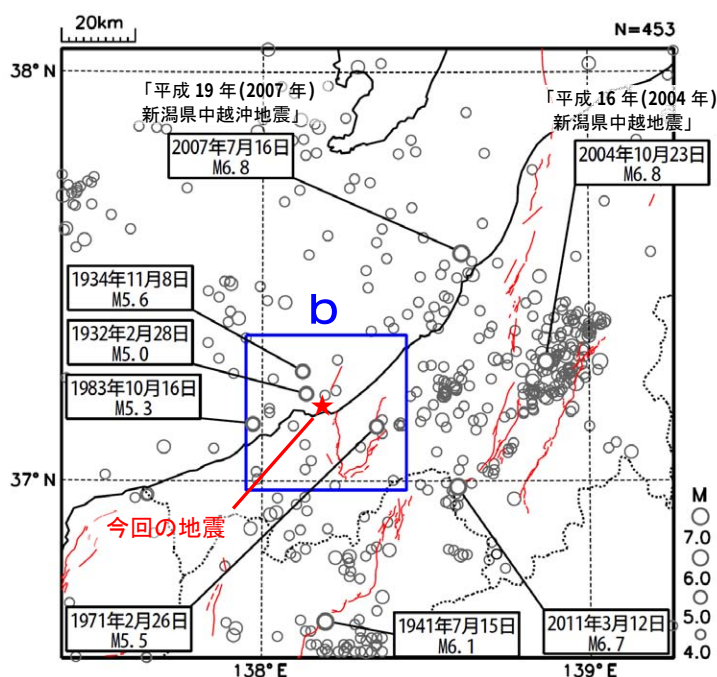
領域a内のM-T図



領域b内のM-T図



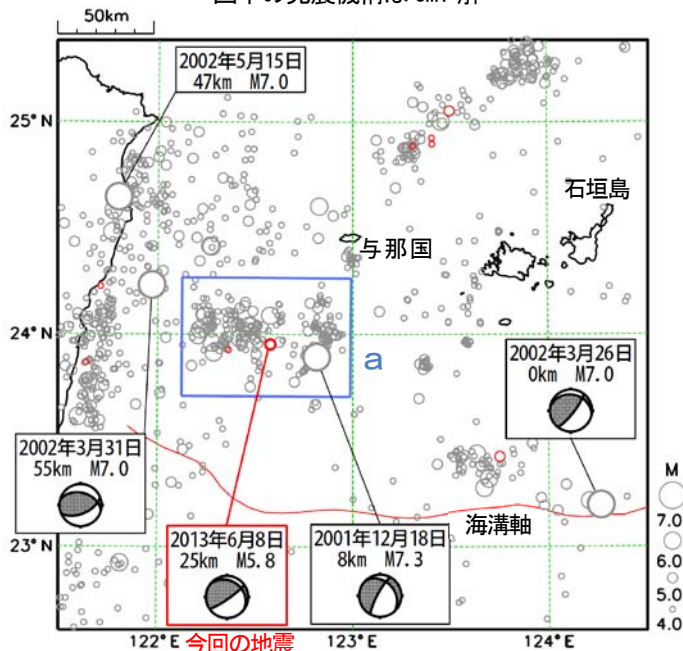
震央分布図
(1923年1月1日～2013年6月9日、
深さ0～50km、 $M \geq 4.0$)



細線で地震調査研究推進本部による主要活断層
を表示している。

6月8日 与那国島近海の地震

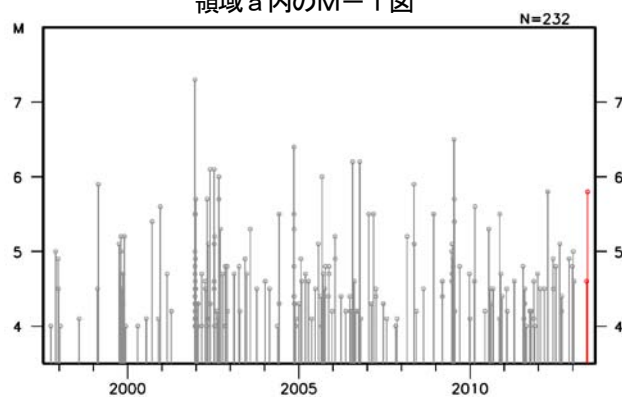
震央分布図
(1997年10月1日～2013年6月8日、
深さ0～90km、 $M \geq 4.0$)
2013年5月以降の地震を濃く表示
図中の発震機構はCMT解



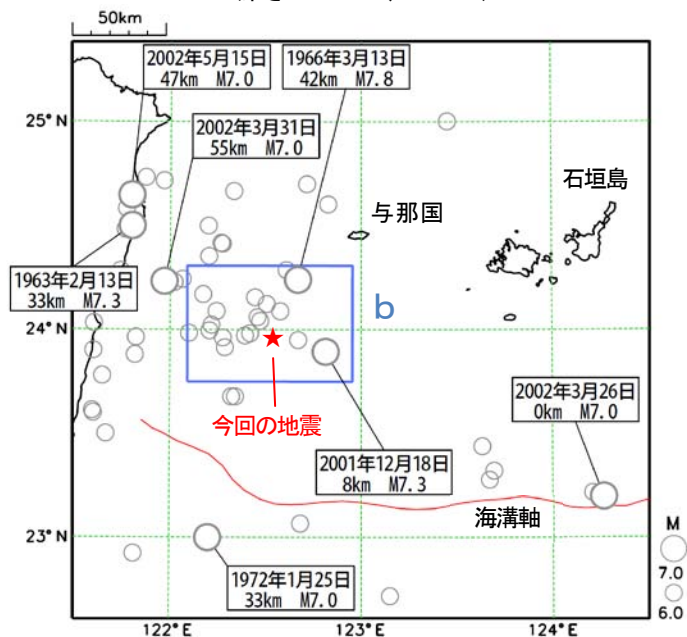
2013年6月8日01時38分に与那国島近海の深さ25kmでM5.8の地震が発生した。この地震の発震機構（CMT解）は、北北西－南南東に圧力軸を持つ型（速報）である。

1997年10月以降の活動を見ると、この地震の震央付近（領域a）では、2001年12月18日にM7.3の地震が発生し、与那国島、石垣島で小さな津波を観測している。

領域a内のM-T図

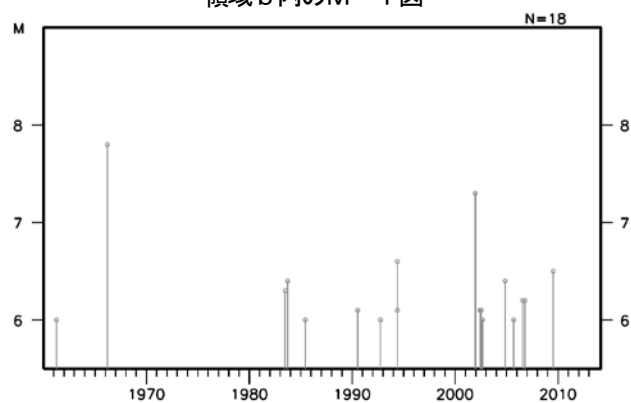


震央分布図
(1960年1月1日～2013年6月8日、
深さ0～90km、 $M \geq 6.0$)



1960年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域b）では、M7.0以上の地震が2回発生している。そのうち1966年3月13日に発生したM7.8の地震（国内で最大震度5）で、与那国島で死者2名などの被害が生じ、沖縄・九州西海岸で津波を観測している（「最新版 日本被害地震総覧」による）。

領域b内のM-T図



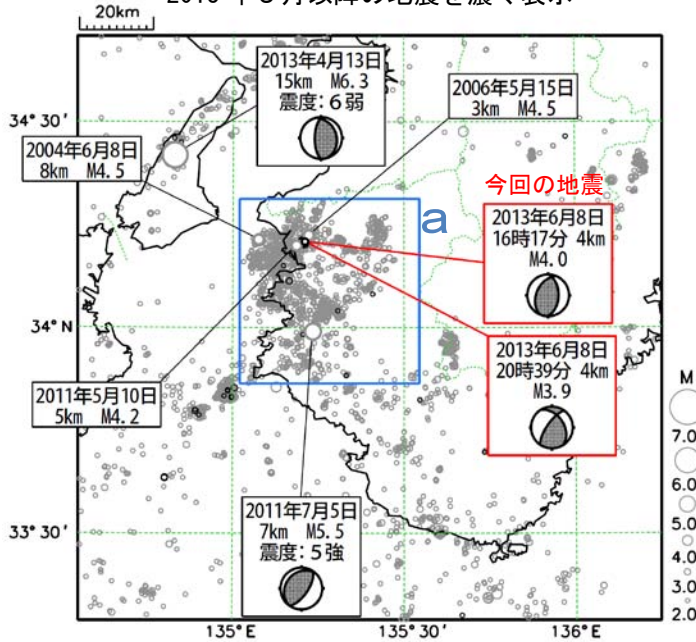
6月8日 和歌山県北部の地震

震央分布図

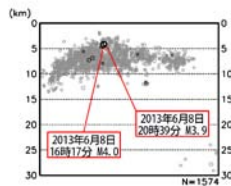
(1997年10月1日～2013年6月8日)

深さ 0～30km、 $M \geq 2.0$

2013年5月以降の地震を濃く表示



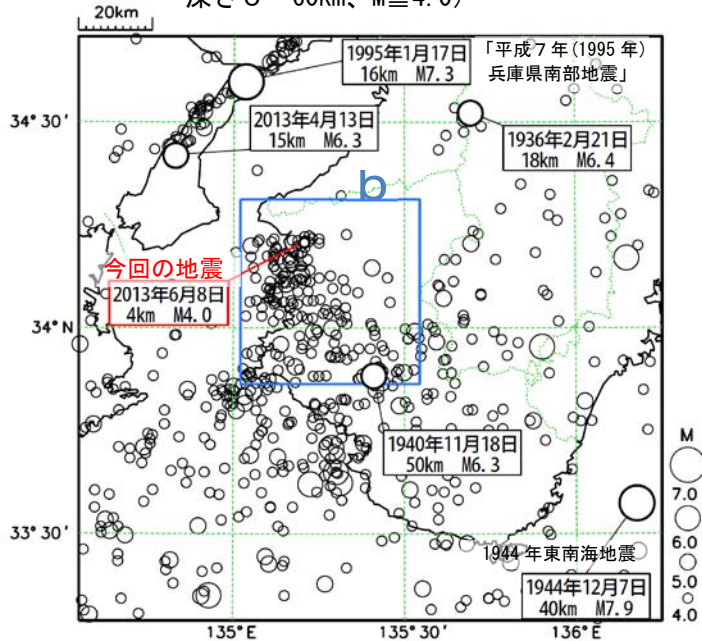
領域aの断面図（東西投影）



震央分布図

(1923年1月1日～2013年6月9日、

深さ 0～60km、 $M \geq 4.0$)

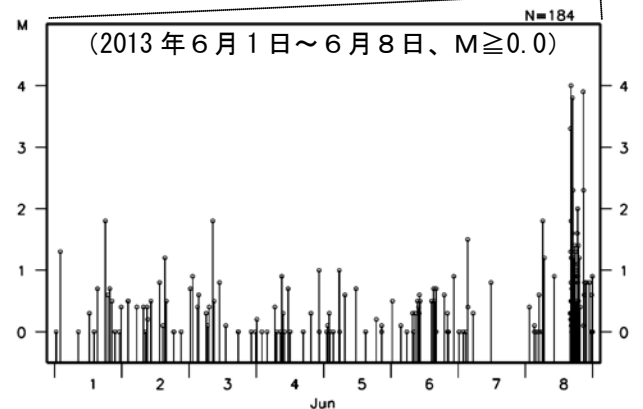
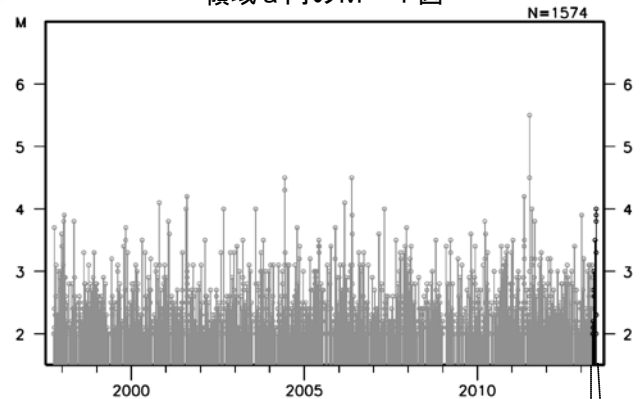


2013年6月8日16時17分に、和歌山県北部の深さ4kmでM4.0の地震（最大震度4）が発生した。この地震は地殻内で発生した。この地震の発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型（速報）である。また、20時39分にもM3.9の地震（最大震度4）が発生するなど、ややまとまった活動が見られた。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（領域a）では、M4.0を超える規模の地震が時々発生している。

なお、今回の震源の南側では、2011年7月5日にM5.5の地震（最大震度5強）が発生し、住家一部損壊21棟などの被害が出ている。

領域a内のM-T図



1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近（領域b）では、M5.0以上の地震がたびたび発生している。

